

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	A-154	15-092 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Associations between night work and BMI, alcohol, smoking, caffeine and exercise--a cross-sectional study. 夜勤と BMI・飲酒・喫煙・カフェイン・運動の関連：断面調査		
執筆者		
Buchvold HV, Pallesen S, Øyane NM, Bjorvatn B.		
掲載誌		
BMC Public Health. 2015 Nov 12;15:1112. doi: 10.1186/s12889-015-2470-2		
キーワード		PMID
交替勤務、夜勤、BMI、肥満、アルコール、カフェイン、喫煙、運動		26558686
要 旨		
背景： 交代勤務は健康に対して負の作用がある。日勤者と比べて、交代勤務者や夜勤者では心血管病リスク因子が多く、心血管病発症リスクも高いことがこれまでの研究で示されてきた。これまでの研究では、日勤者と夜勤者の比較について 2 値変数を用いた解析を行ってきた。本研究では夜勤負荷として前年度夜勤回数(連続値)を用いて解析を行い、健康に悪影響を与える因子として夜勤の影響を見積もった。		
方法： 2008 年 12 月～2009 年 3 月に収集した断面調査データ(The SURvey of Shift work, Sleep and Health (SUSSH))を用いた。研究対象者はノルウェイ人看護師である。人口統計学的データ及び生活様式に関する情報(BMI、喫煙、飲酒、カフェイン消費、運動習慣)を収集した。生活様式についてのアウトカム変数との関連は階層的重回帰分析或いは 2 値ロジスティック回帰を用いて評価した。前年度の夜勤回数は夜勤負荷を示す値として用いた。交絡因子の調整も行った。肥満は BMI30 以上と定義した。飲酒は AUDIT-C を用いて評価した。		
結果： 2,059 名の看護師を調査対象とした。前年度の夜勤回数は BMI ($\beta=0.055$) と肥満の有無(オッズ比=1.01) の両方と統計的に有意な正の関連にあった。AUDIT-C スコアは夜勤回数との関連はなかったが、1 週間当たりの労働時間と有意な正の関係にあった。		
結論： 夜勤負荷と BMI に有意な正の関連を認めた。過度な負荷のかかる夜勤は健康に悪影響を及ぼすリスクが高いので特に注意を払い、また健康チェックの回数を増やす方が良い。		